



練馬区立開進第一中学校

# 開進一中だより

平成29年度 第7号 平成29年11月29日発行

## 開校70周年記念式典

校長 古山 真樹

11月25日土曜日午後2時より、本校開校70周年記念式典が執り行われました。練馬区教育委員会教育長河口浩様、練馬区議会議長小林みつぐ様よりご祝辞をいただき、本校ゆかりの都議会議員、区議会議員、近隣の小中学校の校長先生方、PTA会長の皆様、本校歴代校長先生方、そして地元町会長・自治会長を始めとする多くの学校を応援してくださっている地域の方々のご出席をいただきました。

そうした中で、生徒たちは高い意識をもって、礼儀作法、全員合唱にと力を発揮しました。お祝いの言葉を述べた3年生の加藤剛史君、湧川恵理さんには、来賓の方々から絶賛の声が上がりました。誇らしく開校70周年を祝えたことに喜びを感じます。

また記念演奏会を行ってくれた吹奏楽部の皆さん、本当にご苦労さまでした。素晴らしい演奏にアンコールの声もかかりましたが、時間の都合で終わらせていただきました。

そして午後4時からは練馬区長前川耀男様のご臨席をいただき70周年記念祝賀会を開催いたしました。たくさんのご来賓の皆様にご祝っていただけたのも開一の伝統、開一の素晴らしさだと改めて痛感いたしました。さらには当日の準備、接待に50名以上の保護者の方々にもお手伝いをいただき、本当にありがたく感じました。皆様のお力添えのお陰で立派に成功させることができました。ありがとうございました。

生徒の皆さんも、70周年記念式典に参加できたことを誇りとして、学校はたくさんの方々にお世話になっているという感謝の気持ちを忘れずに、いつか同窓生として祝う仲間へ成長してほしいと願います。

皆様、本当にありがとうございました。

### 今月の言葉

### 縁

人は誰でも様々な縁で結ばれています。まずはこの世に生まれたときから血縁けつえんが生じます。人の最も基本的なつながりである親、兄弟、親戚の縁をもって生まれ、ご先祖様とも縁ができます。そして生まれた場所も縁ですね。この日本に生まれ、東京の練馬区の早宮との縁が生まれ、その地域の人たちと暮らしていくこととなります。これを地縁ちえんと言います。さらには開進第一中学校に進み、同じ学年、学級の人たち、さらには先輩・後輩の縁ができ、開校70周年に巡り会ったのも今年在籍している524名の縁です。そしてこれからもたくさんの人と出会い、運命の人と出会うのも縁です。そういった結びつきは特に縁えんと言います。

かつての同僚が「世界中の人と友達になりたい」と語っていましたが、もちろん世界中73億人の人と巡り会うなどということは不可能なことです。何かの縁で結ばれた人とはしか出会えないのです。

この縁というものを昔から日本人は大切にしてきました。特に「袖振り合うも多生の縁（袖すり合うも他生の縁）」と言って、人と人との出会いは偶然ではなく前世からの因縁いんえんである。だから、どんな出会いも大切にしなければならないという仏教の教えによります。さらには次のような言葉もあります。「小才は縁に出会って縁に気づかず、中才は縁に気づいて縁を生かせず、大才は袖すり合った縁をも生かす」縁に気づき、縁を生かせる人でありたいものです。

開進第一中学校の70周年記念式典という記念すべき年に巡り会い、改めて参加して下さった方々全員との縁を大切にしていきたいと感じました。

## 70周年記念式典 校長式辞より

開校から70年。当時在籍していた方々も80代。式辞の前半では、開校当時の記録を残すという意味でも、同窓生より伺ったことを述べました。以下にその部分のみを記します。

(前略)

本校は昭和22年4月1日に新しい学校制度と共に板橋区立開進第一中学校として創立いたしました。しかしながら、校舎もなく教員もそろわず、学校は始まらず。5月1日によろやく開進第一小学校に間借りしての開校となったそうです。当初は机も椅子もない、もちろんチョークもないという状態でのスタートだったそうです。そして8月1日、板橋区から練馬区の分離独立により練馬区立開進第一中学校となりました。しかし開一小での間借りは続き、校舎ができて現在のこの地に引っ越してきたのは昭和24年のことだそうです。まだまだ戦後の混乱、苦しい時代の中で、一つ一つ、学校の基礎ができていきました。そうした中でも、生徒たちは学ぶことのよろこびを感じ、希望に胸をふくらませて、一生懸命に勉強に励んだそうです。

そこには地名ではない校名、「開進」の精神が息づいていました。「開進」、「智を開き以て徳に進まん」という、学ぶことで自分を高め、人格を磨き、徳の備わった人材として社会に役立っていくという気概と進取の精神を感じます。

この広い敷地に校舎も備わっていく中で、昭和30年代には生徒数が1300人を超す状況になり、昭和33年には北町中学校が本校より分離独立していくこととなります。そうした中で、本校に関わった教職員、保護者の方々は、開校当時から花の楽園と言われた校庭をさらに素晴らしいものにしようと花壇の手入れはもちろん若木を植え、育て、未来の自然溢れる学校のために、たいへんな努力をしてくださいました。その結果が、今まさに三百本以上の樹木・草花に溢れる学校となっています。春夏秋冬美しい環境を整えてくださり、今の我々に潤いと安らぎを与えてくださった先人に感謝したいと思います。

ヒマラヤスギの堂々とした姿、練馬の名木スダジイの心落ち着く佇まいを見ていると先人たちの魂を感じ、16079名の卒業生や本校に関わった数百人の先生方主事さん方が今の我々をしっかりと見守り、応援してくれているような気持ちになります。

70周年という記念すべき年に巡り会えた君たちは、70年間受け継がれてきた開進一中のエネルギーをもらい、先輩たちに恥ずかしくないようにならなければなりません。この開進一中で頭を鍛え、心を鍛え、体を鍛えて、教育目標である、自立した人、誠実な人、貢献する人となって、社会から求められる人材としてはばたいていってください。これから三十年後、本校が百周年を迎えるとき、君たちは四十代となり、まさに社会を担う人材として活躍しているはずです。その基礎力をこの開進一中でしっかりと身に付け、未来に目を向けていきましょう。

(後略)

## 開校七十周年記念式典 代表生徒挨拶

南校舎の一階にある会議室、そこには、昭和二十二年、今からちょうど七十年前の航空写真がのこされています。当時の開進一中は周囲を畑に囲まれ、周辺にはさえぎるものもない広大な農地が広がっていました。現在では畑はほとんど姿を消し、学校の周辺は住宅地となっています。曲がりくねって入り組んだ道や、円形につながった道に、わずかに当時の農道の名残を感じるばかりです。

今改めて思うのは、この七十年という長い歴史の中で多くの先輩方がつくりあげてきた伝統の上に今の私たちの学校生活があるということです。大きな節目に当たる今、その歴史をふり返ってみると、そこには現在の開一中にも脈々と受け継がれているいくつかの伝統が見えてきます。

その一つが緑豊かな学校であるということです。春には桜の木が生徒たちを華やかに迎え、夏には学校中の木々が青々と生命を輝かせます。これらの木々は昔からこの学校に存在し、この学校を見守ってきました。今日出席されている卒業生の方々の中にも、開一中の変わらぬ自然に懐かしさを感じられた方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

部活動も昔から盛んで、今はない柔道部、ソフトボール部、男子バレーボール部などもあり、それぞれに優秀な成績を残していたようです。勉強にも部活動にも全力で取り組む姿は、今も変わっていません。

そうしたことともに、開進一中には文武両面において、長く続く伝統があります。

その一つが、読書活動です。具体的には、朝読書と一冊読みの取り組みがあります。一冊読みは、課題図書として、先生から推奨された本をじっくりと読み進めます。そしてその課題図書の内容を授業で掘り下げて学習します。今まで深く考えたことのなかった命の尊さや人間関係について、多くのことを学ぶことができました。さらに、登場人物の人間性を探ることで物語の世界が広がっていくのが感じられます。作者や作品名を耳にしたことはあっても、手にとって読むまでには至らなかった作品もあります。自分自身では選ばないであろう作品にも触れることができ、教科書とは違った学習方法に魅力があります。

もう一つの伝統に運動会があります。例年、三学年全体で実施される競技として、男子の組体操、女子のよさこいソーランがありました。男子の組体操は難易度が高く、高さのある技の数々は、見ている側も手に汗を握るほどでした。技が成功したときは、割れんばかりの拍手が校庭に響きわたったことが思い出されます。女子のよさこいとダンスは、ふりつけを考案し、みんなに教えるピックアップが中心となって練習を積み重ねました。よさこいの軽快なリズムに合わせて華麗で、かつ、力強い踊りを披露しました。各々の手に持つ鳴子の音が調和したときには、達成感がありました。今年度は安全面の配慮から、競技種目が見直され、組体操とよさこいの実施はされず、新たに障害物競走、走り高跳びなどが実施されました。競技種目が変わっても、生徒全員が個々の競技のみならず、クラス単位での競技においても、大いに活躍し、全力で取り組んだことには変わりはありません。学年種目である筏流し、大縄跳び、大ムカデでは例年通り盛り上がりを見せました。個人種目では一人ひとりの記録が残され、表彰が行われるようになりました。こうして、開進一中の運動会の新しい伝統が始まりました。

七十年間、先輩方が多くの行事や文化を継承して下さいました。私たちも同じ開進一中の一員として、そうした誇りある伝統を次の世代に引き継いでいきたいと思えます。また、継続してきた伝統を受け継いでいくことも大事な役割ではありますが、過去の思いのうえに新しいことを取り入れていくことも私たちの大切な努めかと思えます。今後もこれまでの伝統と先輩方の培ってきた思いを大切に、新しい風を取り入れて前進していきたいという決意を新たにして、生徒代表のあいさつといたします。

平成29年11月25日

生徒代表 3年3組 湧川 恵理  
3年4組 加藤 剛史



# ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 学力調査報告 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

**3年 全国学力・学習状況調査** 4月18日実施

平均正答率

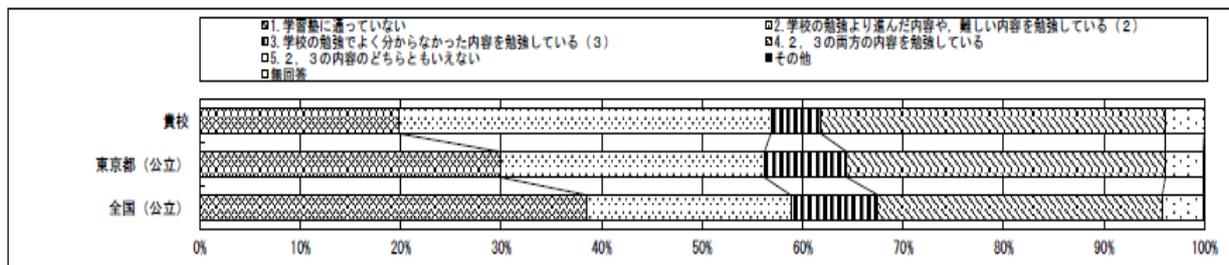
	国語A (主として知識)	国語B (主として活用)	数学A (主として知識)	数学B (主として活用)
本校	83	77	75	54
東京都	79	74	66	50
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

数値を見ればわかるとおり、全国平均、東京都の平均を上回っており、3年生がしっかりと学習に取り組み、実力を着実に付けている様子がわかります。特に数学Aの数値はたいへん立派です。

しかしながら、分野別に見たり（これは各教科の先生方が既に分析をしています）、個人個人を見れば課題はあるはずで、単に全体の数値が良いからと満足はしないようにしましょう。

さて、同時に行われたのが、学習状況、学習意識、生活状況等の94項目のアンケート調査です。ここには、本校生徒の特徴が表れていました。その一部を以下に紹介します。

質問番号	質問事項										
(17)	学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	19.9	37.0	5.0	34.3	3.9					0.0	0.0
東京都（公立）	29.9	26.3	8.2	31.7	3.8					0.0	0.1
全国（公立）	38.5	20.3	8.7	28.3	4.1					0.0	0.1



毎年の本校3年生の傾向ですが、学習塾に通っていない人は20%と全国平均の約半分、80%の人たちが学習塾に通っています。中でも「学校より進んだ難しい内容」を学んでいる人たちが37%と全国平均の倍近くいます。他の項目と合わせると、開一の生徒は、学習時間が非常に多く、逆にテレビやゲームなどの時間は全国平均よりもかなり低くなっています。ほとんどの人が塾で学んでいます、学習中心の生活をして、前向きにがんばっていることがわかります。

**2年 東京都生徒の学力向上を図るための調査** 7月6日実施

平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語
本校	75.8	55.3	54.7	53.4	63.7
東京都	73.0	56.2	53.3	56.6	65.0

社会、理科、英語で東京都全体の平均を下回っています。これは本校としては前代未聞の結果と言えます。このままではたいへんです。もう一度一人一人が自分の学習姿勢を見直しましょう。授業態度、家庭学習、進路選択に向けた心構えなどを振り返りましょう。1年後にはもう受験校を決定しなければなりません。この結果をしっかりと挽回できるようにしましょう。がんばれ2年生。